

1 文章をうまくつなげよう

その場所にふさわしい接続表現を用いて、接続関係をはっきりさせよう。そうすることで、議論の流れがクリアーになり、自分の主張が読み手に伝わりやすくなる。

1.1 解説と根拠

1.1.1 解説

《要約・敷衍・換言》

すなわち
つまり
要するに
簡単に言うと…より詳しくは
言い換えれば

【メモ】引用したら、「すなわち、…」などで、自分のことばでまとめる。

1.2 根拠

根拠とは、理由（ないし前提や原因）と帰結（ないし結論や結果）の関係のこと。

《理由》

なぜなら
というのも
その理由は
ので
から

《帰結》

それゆえ
したがって
だから
結論として

1.3 例示

《例示》

たとえば
具体的には

1.4 付加と転換

1.4.1 付加

《付加》

また
そして
しかも
むしろ

1.4.2 転換

《転換・反対・対立・逆接》

しかし
だが
それに対して
ところで
一方

【メモ】「…が」というつなぎは避ける。

1.4.3 補足

《補足》

ただし
もつとも

これらをうまく組み合わせて、文章の論理的な構造をはっきりさせよう。

参考文献

- [1] 野矢茂樹『新版 論理トレーニング』、産業図書、2006年、第1章。